

〈研究ノート〉

人種主義についての物語として読むミュージカル *Wicked*

柴 崎 小百合

【要旨】

Wicked (2003) は、トニー賞に輝く人気のブロードウェイミュージカルであり、米国で誰もが知る児童文学 *The Wonderful Wizard of OZ* (1900) の書き換えの物語である。*Wicked* では、原作に登場する「西の悪い魔女」が主役となり、その視点から物語が展開する。本稿では、*Wicked* を人種の視点で解読する可能性について検討する。主人公エルファバが、権力者によって恣意的に構築された人種の境界線を転覆させることで、現実のアメリカ社会の人種主義を批判していると論じる。

キーワード：アメリカ研究、人種差別、ミュージカル、文化批評

はじめに

Wicked は、トニー賞に輝く人気のブロードウェイミュージカルである。2003年のブロードウェイ初上演以来ロングランを続け、現在でも全米中の主要都市で上演され人気を博している。今では多くの言語に翻訳され、世界中で公演が行われている。日本では劇団四季が2007年に『ウィキッド』として完全翻訳版を発表し、2016年まで全国各地で上演された。

物語の主人公は魔法の国オズに住む、緑色の肌をした女性エルファバである。その外見から社会的な「のけ者」にされながらも、性格も生立ちも対照的なグリンダと友情を育みながら、オズの支配者である「オズの魔法使い」に立ち向かう。

本稿は、このミュージカルを、差別や偏見に抵抗する政治的な物語として解釈する試みである。

1. 国民的なおとぎ話の書き換え

アメリカ人であれば、児童文学作家ライマン・フランク・ボームの童話 *The Wonderful Wizard of OZ* (1900)¹ を知らない人はまずいないだろう。竜巻でカンザスから魔法の国オズに飛ばされてきた少女ドロシーが、ブリキの木こり、脳みそが欲しいカカシ、勇気の無いライオンと共に、良い魔女の助けを借りて悪い魔女を倒し、帰郷するまでの旅を描いたファンタジー

である。一方、ミュージカル *Wicked* は、“The Untold Story of the Witches of OZ” との副題通り、原作では描かれなかったもうひとつのオズの裏の物語である。

Wicked は、グレゴリー・マグワイアの 1995 年の小説 *Wicked: The Life and Times of the Wicked Witch of the West* を下敷きにしている。この小説は、ボームの *The Wonderful Wizard of OZ* と 1939 年のハリウッド映画 *The Wizard of OZ* に想起したものであり、ウィニー・ホルツマンが脚本を書き、ステイーヴン・シュワルツが作詞作曲し、舞台ミュージカルに改編した。本稿は、主にこのミュージカル版を分析対象とするⁱⁱ。

ボームの原作において西の悪い魔女は、ひとびとを恐怖で支配し、ドロシーを排除しようとするさまざまな恐ろしい攻撃を仕掛ける邪悪な魔女として描かれ、物語の最後にはドロシーに水をかけられ溶けてなくなってしまう。彼女は、絶対的な悪であり、釈明の余地は与えられず、破滅を運命づけられている。1939 年の映画版では、マーガレット・ハミルトン演じるこの上なく恐ろしい緑色の魔女が観客を恐怖に陥れ、「西の悪い魔女＝緑色の肌」のイメージが定着した。*Wicked* ではこの西の悪い魔女が主人公エルファバとなり、彼女の視点から物語が展開する。

緑色の肌のエルファバは、その肌の色によって、家族からも拒絶され、大学でも孤立し、居場所がない。しかし、自立した性格の彼女は、周囲の偏見に屈することはない。この作品のヒロインであるエルファバは、思慮深く、知的で、正義感が強く、魅力的な女性として描かれており、原作での「北の良い魔女」グリンダと反発しながらも友情を交わし、紆余曲折を経て隣国の王子との恋も成就させる。さらに、国民の信頼を集め、実質的な国の支配者であるオズの魔法使いの裏の顔を知り、その陰謀を暴く。エルファバは、多様性を否定し、他者に不寛容な国家となることからオズを救う救世主として描かれる。最後は、ドロシーに溶かされたと思せかけ、オズの魔法使いを出し抜き、ひっそりと逃げ延びて、人知れず幸せに暮らしていくことが示唆されている。つまりエルファバの表象は単なる悪役から脱却し、より豊かで、観客が自己同一化できるヒロインなのだ。

このように *Wicked* は、「西の悪い魔女」をまったく新たな視点から書き換え、現代的で観客が共感できる女性像として再提示している。

2. 書き換えの系譜

こういった書き換えの物語は、文学から大衆文化まで多岐に亘り無数に存在するわけであるが、その中でもっとも影響力があった作品のひとつに、西インド諸島出身のジーン・リース著 *The Wide Sargasso Sea* (1966)ⁱⁱⁱ がある。ポストコロニアル文学は、不当に沈黙されてきた声を発掘し、それに焦点を当てることで、オリジナルのテキストに隠蔽されたイデオロギーを露見させてきたが、*The Wide Sargasso Sea* も例外ではない。

The Wide Sargasso Sea はシャーロット・ブロンテの *Jane Eyre* (1847)^{iv} の書き換えである。

Jane Eyre には、屋根裏に幽閉されている狂女が登場する。この女性は、主人公ジェーンが思いを寄せる男性の妻である。この狂女については、イギリスの植民地であったジャマイカから連れてこられたという以外、内面や、生い立ちなどが語られることは一切なく、完全に他者化されて描かれる。徹底的に客体化され、沈黙を強いられ、周縁化されたこの女性は、単に主人公ジェーンの聡明さや芯の強さの対比としてしか存在しない。

Jane Eyre から 120 年、ジーン・リースは、この女性バーサに光を当て、声を与え、釈明の機会を与えることで、名誉を回復した。*The Wide Sargasso Sea* では、バーサがイギリスに連れてこられる前の半生が描かれ、イギリスに連れてこられた経緯や、発狂した理由が明らかにされる。つまりバーサは、読者が共感できる主体として設定されているのだ。バーサと同じく、西インド諸島出身のクレオール^vであるリースが、*Jane Eyre* の主人公ジェーンよりも、バーサに自己同一化し、その視点から物語を紡ぎ直そうとしたのは必然といえる。リースは、ブロンテの物語を書き換えることで、*Jane Eyre* の深層に隠蔽されたクレオールや文化的他者に対する偏見を明らかにした^{vi}。

それではアメリカ文化に深く根を下ろす国民的童話を書き換えることで、*Wicked* が明らかにしているものは何であろうか。

3. 反人種主義の物語としての *Wicked*

エルファバが肌の色によって差別される描写は、米国に根強く残る人種差別を強く喚起する。エルファバの描写には、黒人に対する人種差別の歴史を思い起こさせるものが多い。例えば冒頭のエルファバが誕生する場面に注目したい。“I see a nose. I see a curl, I see a healthy, perfect, lovely, little...”と助産師が歌う中、赤ん坊の緑の肌色に周囲はぎょっとし、父親は、“Take it away.”と告げる。南部諸州の奴隷制度の下横行したプランテーションのオーナーによる黒人奴隷女性の性的搾取の結果、白人階級同士であっても肌の色の濃い赤ん坊が産まれるケースは多々あった（勿論その逆も多くあった）。そのような場面は映画や小説などの大衆文化で多く描かれている。エルファバ誕生の場面は、その模倣であり、パロディであると解釈できる。

しかし、演劇学で多くの論文を持つステシー・ウルフは、エルファバの肌の色に黒人差別の歴史を重ねることに関しては懐疑的である。よく引用される“‘Defying Gravity’: Queer Conventions in the Musical *Wicked*”^{vii}では、エルファバ以外の人種化に注目し、それをユダヤ人の人種の記号として解釈している。

By portraying another character (primarily Dr. Dillamond, but also the group) as so definitively marked as Jewish and as racialized, and by positioning Elphaba as a defender though not a member, the musical certifies that her color is not a “race” and stresses her differences from all others.^{viii}

確かにウルフが言及する通り、エルファバ以外の登場人物はユダヤ人のメタファーと解釈できる。特に言葉を話す山羊のディラモンド博士はその特徴が顕著に表れている。彼は、エルファバたちが通うシズ大学の権威ある歴史学者である。オズの国は、動物が言葉を話し、人間と同じ知的水準にある、人間と動物の境界線が非常に曖昧な国として描かれている。オズは、表面的には、他者に寛容で、平等で、なにか問題があれば魔法使いが解決してくれるといった、ユートピア的な国家だ。

だが、それはディストピアと表裏一体の国家でもある。実質的な支配者のオズの魔法使いは、オズを独裁的な国家に作り替えようと水面下で企む。人間の特権を脅かすと知性のある動物を危惧し、言葉を取り上げ、市民権を剥奪し、隔離しようと画策する。このように、オズは、表面上は理想的な社会に見えるが、その実、抑圧的な国家である。

また、オズは監視社会でもある。本作の舞台上には機械仕掛けの巨大なドラゴンが設置されており、幕が上がった直後、それが不気味に左右に大きく動く仕掛けとなっている。Time Dragon Clock と呼ばれるそのドラゴンについてグリンドは、“According to the Time Dragon Clock, the melting occurred at the 13th hour; a direct result of a bucket of water thrown by a female child. Yes, the Wicked Witch of the West is dead!” と語る。オズの誰も目撃していなかったエルファバの死は、そのドラゴンによって確認されたという。このことから、このドラゴンが監視カメラのような働きをしていることがわかる。

このような独裁的で全体主義的なオズの国家の表象は、ウルフが指摘する通り、ユダヤ人の知性を恐れ、迫害し、隔離し、ホロコーストを推し進めたナチのメタファーと解釈できる。オズの魔法使いは、ヒットラーがユダヤ人の知性に嫉妬しそれを恐れたように、ディラモンド博士の知性を危険視する。ディラモンド博士が、既存権力を疑い、それに抵抗するよう人々を先導し、自分を滅ぼそうとするのではないかと恐れているのだ。また、行き過ぎた監視社会、反体制への徹底的な弾圧など、ナチスの政権下で行われていたことと重複する描写が多い。ウルフが指摘する通り、ディラモンド博士が構成員に連行される場面は、ナチスによるユダヤ人連行を喚起する^{ix}。

しかし、*Wicked* は同時に米国の人種差別を暗喩する。種と種の間にも恣意的な境界線を構築しようとする様は、米国で黒人と白人の境界線を作り上げた本質主義的な人種主義のメタファーとして解釈できる。白人至上主義は、白人とその他のマイノリティの間に恣意的な人種による境界線を構築し、黒人およびマイノリティを公民権を持たない集団として閉じ込めようとした。さらに、その境界線が侵犯されることを恐怖し、あらゆる手段を使ってそれを阻止しようとしてきた。人種隔離政策が行われていた南部諸州では、白人至上主義に意義を唱える人々の言論統制が行われ、反対運動は暴力的に弾圧されてきた。表面だけ自由で平和なオズは、このようなアメリカ社会の歴史を揶揄している。

ディラモンド博士の置かれた状況も米国の人種差別を暗示する。彼は自分の置かれた立場について “As you know, I am the sole Animal on the faculty. The token Goat...” と語る。ディラモ

ンドが言う the token Goat とは、人種差別の表面的な撤廃のシンボルとしてその職に登用されたという意味である。これは、人種差別を是正する政策として黒人やマイノリティを就職や進学で優遇するアファーマティブ・アクションを暗示する。

オズの魔法使いが目論んだ他者に不寛容で差別的な社会は、実社会においていくらでも現実となりうる危険性を孕む。今日のアメリカの政治情勢を考慮すれば、それはまさしく紙一重である。*Wicked* は、幼いころアメリカ人が親しんだ童話をまったく別の物語に組み換えることで、不寛容で差別的な社会を可視化し、それをファンタジーとして観客に提示してみた。そうすることで本作は、現実社会にまだまだ根深く残るあらゆる種類の差別、偏見、抑圧を糾弾している。さらに、物語の中で首謀者を排除し、その野望を壊滅させることで、*Wicked* は、多様な差異に対して寛容な多元文化主義を標榜している。

おわりに

エルファバの肌の色を巡ってはさまざまな見解がある。先に紹介したように、ウルフは、エルファバが抑圧される集団の一員でないの、彼女の肌は人種を表してはおらず、他の誰とも違うという記号に過ぎないとしている。一方、ミシェル・ボイドは“Alto on a Broomstick: Voicing the Witch in the Musical *Wicked*”において、エルファバの肌の色は、制限のないメタファーだと述べ、それはあらゆる種類の差異、障害、疎外感を象徴すると主張する^x。このようなエルファバの緑色の肌色と人種を巡る議論の検証については、次の課題としたい。

【注】

- ⁱ 日本では『オズの魔法使い』として知られる。初版は L. Frank Baum, *The Wonderful Wizard of Oz*. Geo. M. Hill Co., 1900. この作品は幾度となくミュージカルや映画になっている。1902 年には最初のミュージカル版 *The Wizard of Oz* が上演され話題を呼んだ。ジュディ・ガーランドが主人公の少女ドロシーを演じた 1939 年の映画版 *The Wizard of Oz* はあまりにも有名である。
- ⁱⁱ 筆者が観劇したのは、2016 年 8 月 19 日にロンドンのアポロ・ヴィクトリア劇場で上演されたものである。なお、本稿で引用するすべての歌詞は、2003 年 11 月 10 日のニューヨーク、ガーシュイン劇場での公演を収録した CD の歌詞カードからである。台詞については、〈<http://wickedlywicked.blogspot.jp/2009/01/wicked-script.html>〉から引用している。
- ⁱⁱⁱ Jean Rhys, *Wide Sargasso Sea*. London: Andre Deutsch, 1966.
- ^{iv} Charlotte Bronte, *Jane Eyre*. London: Smith, Elder, and Co., 1847.
- ^v 植民地生まれの白人。しばしば蔑視の対象となった。
- ^{vi} この議論については、Carine M. Mardorossian, “Shutting up the Sabultern: Silences, Stereotypes, and Double-entendre in Jean Rhys’s *Wide Sargasso Sea*.” *Callaloo*. (Fall, 1999) 1071-1090. などに詳しい。

- vii Stacy Wolf, “‘Defying Gravity’: Queer Conventions in the Musical *Wicked*.” *Theatre Journal*. (60, 2000), 1-21.
ここでは、*Wicked* をクィアの物語として解釈している。そのような解釈をした論文は他にもあり、Kevin Clifton, “A Tale of Two Witches: Reflections on an Unlikely Friendship in *Wicked*” などに詳しい。
- viii Wolf, 10.
- ix ウルフは連行する人々の服装がナチの制服と酷似していると指摘する。Wolf, 10.
- x Michelle Boyd, “Alto on a Broomstick: Voicing the Witch in the Musical *Wicked*.” *American Music*. 28.1 (Spring 2010), 97-118 参照。

【引用・参考文献】

- Balm, L. Frank. *The Wonderful Wizard of OZ*. Chicago and New York: Geo.M.Hill Co., 1900.
- Boyd, Michelle. “Alto on a Broomstick: Voicing the Witch in the Musical *Wicked*.” *American Music*. 28.1 (Spring 2010), 97-118.
- Bronte, Charlotte. *Jane Eyre*. London: Smith, Elder, and Co., 1847.
- Clifton, Kevin. “A Tale of Two Witches: Reflections on an Unlikely Friendship in *Wicked*.” *Theater History Studies*. 86.4 (Fall 2006), 27-30.
- Gilbert, Sandra and Gubar, Susan. *The Madwoman in the Attic: The Woman Writer and the Nineteenth-Century Literary Imagination*. New Haven and London: Yale UP, 1979.
- Maguire, Gregory. *Wicked: The Life and Times of the Wicked Witch of the West*. Regan Books, 1995.
- Mardorossian, Carine M, “Shutting up the Sabultern: Silences, Stereotypes, and Double-entendre in Jean Rhys’s *Wide Sargasso Sea*.” *Callaloo*. (Fall 1999) 1071-1090.
- Rhys, Jean. *Wide Sargasso Sea*. London: Andre Deutsch, 1966.
- Wolf, Stacy. “‘Defying Gravity’: Queer Conventions in the Musical *Wicked*.” *Theatre Journal*. (60, 2000), 1-21.
_____. *Changed for Good: A Feminist History of the Broadway Musical*. New York: Oxford UP, 2011.

Wicked as a Anti-racism Narrative

Sayuri Shibasaki

Abstract

Wicked (2003-), the Tony awarded Broadway musical, is an adaptation of the well-known American children's novel, *The Wonderful Wizard of OZ* written in 1900. In *Wicked*, "the Wicked Witch of the East" from the original text is transformed into a green-skinned witch with good intentions and the entire story is told from her perspective. In this essay, I argue that *Wicked* embodies anti-racism by deconstructing the racial line which was purposely created by the OZ king, who is the dictator character, in the musical.